

平成23年3月24日

兵庫県生活交通対策地域協議会
会長 竹本 明 正 様

兵庫県洲本市栄町一丁目2番9号
淡路交通株式会社
取締役社長 加藤 友彦

淡路島内在来線における過疎路線の退出意向申出書

謹啓 貴職ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当社の事業全般にわたり、格別のご高配を賜りましてまことにありがとうございます。

さて、「兵庫県生活交通対策地域協議会」においては、地方の過疎路線について活発な議論が展開されており、これまで当社の不採算路線についてもご協議いただき、一定の方向付けがなされてまいりました。また、地方バス路線維持を目的とした「国庫補助制度」並びに「県単独補助制度」等におきましてもご配慮を賜り、感謝申し上げる次第です。

このたび、平成13年にも本協議会で「路線退出議論」をいただき、平成14年8月から地元洲本市の「単独補助」をいただきながら運行継続してきた「上灘線」について、再度「退出意向」を申し出ることといたしました。

洲本市からの「単独補助」をいただきながら運行を継続して8年余りが過ぎ、島内在来路線の運行環境もすっかり変化しております。利用が極めて低調な路線系統は廃止され、幹線路線においても抜本的な減便再編が実施されております。

「上灘線」の利用実態と洲本市が負担する「運行維持に掛かる補助金」等を勘案した場合、「本当に当社乗合バスとして維持する必要があるのか。」または「補助金額に見合う地域住民利用があるのか。」など、その手段方法を再検討する時期に来ているものと推察いたします。

また、当社側での事情を申しますと「団塊の世代」の定年退職が進むと共に、「バス運転士の確保」の問題があり、必要とされる「バス輸送」を見定め、適切に輸送力を整備していかなければなりません。

つきましては、あらためて「上灘線」の退出意向を申し出ると共に、これからの状況に見合った当該地区の輸送形態等についてご議論いただき、適切かつ効率的な交通体系を構築いただきますようお願い申し上げます。

謹白

記

①. 住所、名称及び代表者の氏名

兵庫県洲本市栄町一丁目2番9号
淡路交通株式会社
取締役社長 加藤 友彦

②. 廃止しようとする路線（系統）

廃止しようとする運行系統					廃止しようとする路線区間
番号	起点	経由地	終点	キロ程	
17-73	洲本	由良、中津川	来川	23.2 km	兵庫県洲本市由良町由良2339番地先から 兵庫県南あわじ市灘来川堂家作9番地先まで
17-74	洲本高速BC	由良、中津川	来川	23.2 km	

※洲本・洲本高速BC～由良保育園前間は「由良線」と競合しており、路線バスは維持されます。

(洲本市)
(南あわじ市)

③. 廃止の予定日

平成24年4月1日（予定）

④. 廃止を必要とする理由

平成14年8月以降、洲本市から「補助金」をいただきながら運行を継続していますが、当時と比較しましても徐々に利用率は低くなっており、利用率の改善が見込める状況にはありません。

※廃止区間に該当する乗車密度の推移

平成14年度（14.08.01～14.09.30）	1.6人
平成15年度（14.10.01～15.09.30）	1.5人
平成16年度（15.10.01～16.09.30）	1.4人
平成17年度（16.10.01～17.09.30）	1.1人
平成18年度（17.10.01～18.09.30）	0.9人
平成19年度（18.10.01～19.09.30）	0.9人
平成20年度（19.10.01～20.09.30）	0.8人
平成21年度（20.10.01～21.09.30）	0.9人
平成22年度（21.10.01～22.09.30）	0.9人

また、廃止に及ぶ区間においては、便当たりの最高乗車人員でも4～5名程度であり、全く乗車のない便も半数近くに及びます。このような輸送状況で「乗合バス」での輸送形態が適当かどうかの疑問もあり、「補助金額」からの費用対効果も検証する時期に来ているのではないかと考える次第です。

当社においても、「団塊世代」の定年退職を迎え、「運転士要員」の確保に苦慮しており、輸送力を求められるその他在来線、高速線を数多く抱えています。限られたバス運転士を適切に配置し、効率的な乗合バス事業を展開していく上でも「非効率」な輸送力配置を是正していく必要に迫られているのが実情です。

従いまして、これ以上の「上灘線」の維持を今の状況で継続することは、非効率であると共に、当社輸送力の適正配置を考えましても困難であるとの判断から廃止（退出）の申し出に至った次第です。

◎当該路線についてこれまで講じてきた経営努力の内容

「洲本高速BC」での他のバス路線接続、「来川」での南あわじ市「らん・らんバス」との接続等も配慮し、洲本市と協調のうえ、ダイヤ編成を行ってまいりました。

また、バス停掲出している大判の時刻表を沿線の病院等に配布してダイヤ情報の浸透に力を入れると共に、運行車両を全車バリアフリー対応にして高齢者や交通弱者にやさしい車両環境を整えてまいりました。

⑤. 添付資料

(1) 運行事業者（当社）の現況

- ・輸送量（過去3年間の輸送人員等の実績）
- ・経営状況（過去3年間の損益の状況、原価の概要等）

(2) 対象路線（系統）の現況

- ・輸送量（過去3年間の乗車密度、乗降人数等）
- ・運行状況（運行回数、運行時刻の概要等）
- ・収支状況（過去3年間の営業収支実績等）

(3) 廃止計画系統概要図

(4) 対象路線（系統）の乗降調査結果



以上